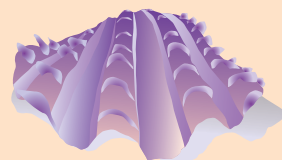


# SCOPE



Coverphoto・Essay / Ikuo Nakamura

## 頑張れヒゲダンゴ!



©IKUO NAKAMURA

背びれや尾びれを懸命に動かし、岩から岩へと移動するのは、ダンゴウオ科のヒゲダンゴである。その泳ぎは、ヨチヨチ歩きの赤ちゃんが必死に歩く様に似ているので、思わず「頑張れ!!」と声をかけたほどだ。

撮影地はオホーツク海の知床半島。水温は夏でも10 ところどころ。流水が訪れる頃には-2 にも低下する、まさに酷寒の海だ。

ヒゲダンゴの体型は球形に近く、腹びれは変形して吸盤の役目を果たすので、岩の上や海藻にチョココンと乗っかっているのをよく見かける。

体長は3cmほど、その姿・形はいかにも健気で、この子に出会うと、自分も頑張らなければと勇気づけられてしまう。

体色は、岩肌に似ていて保護色となっているが、泳ぐ姿を見たときは、外敵に見つかり、襲われやしないかとハラハラする。それを心得ているのか、ヒゲダンゴは遠方までは泳がず、すぐ近くの岩に着地し、動かなくなる。

餌はプランクトンなどの小動物のようだ。ときどきヒューッと上昇し、何かをくわえて再び着地するのを何度か見かけた。

アゴヒゲアザラシの「タマちゃん」のふるさと、オホーツク海。そこで出会った、もっともかわいい魚、ヒゲダンゴ。その小ささで、よくぞ厳しい環境下に生きられるものだと、つくづく感心するばかりである。

## Profile

中村征夫(なかむら・いくお)

1945年 秋田県生まれ。20歳のとき自己流で潜水を始め、撮影プロダクション水中造形センターを経て77年よりフリーの水中写真家に。著書・作品集は『全・東京湾』『海中顔面博覧会』『白保』(情報センター出版局)、『ガラバゴス』『水中の賢者たち』(集英社)、『カムイの海』(朝日新聞社)、『海のなかへ』、『熱帯夜』(小学館)、『沖縄珊瑚海道』(アスペクト)など多数。第13回木村伊兵衛写真賞、第9回文化庁芸術作品賞、第12回東川写真特別賞、第28回講談社出版文化賞写真賞、ほか受賞多数。10/1~10/21、コニカミノルタプラザ(東京・新宿)のギャラリーB・Cで、中村征夫写真展「海へ! 川へ! 湖へ!」を開催。海の魅力やドキュメントフォオの世界を存分に伝えてくれる、100点余りの作品を展示する。



## 編集後記

この夏、友人が今号の巻頭のお話し通り、御蔵島に行って野生のイルカと泳ぎ、目を輝かせて帰って来ました。影響されて、私も大自然に癒されたいと、この秋、屋久島に行く計画を立てました。日本で5番目に大きい島「屋久島」。中国隋代の「隋書」に「夷邪久(いやく)」という名で登場しているそうです。樹齢1000年を超える屋久杉の森は、まさに神の山。その大自然がそこにありつづけているのは、人間がその領域を侵していないからこそだということに想いを馳せつつ、縄文杉を見に行きたいと思っています。が、片道11kmの登山道。まずは体力づくりからはじめないと...。(T.S)

FIND 2003年9月発行 Vol.21 No.5 通巻104号

発行 富士通株式会社 電子デバイス営業本部

企画編集 FIND編集委員会

お問い合わせ先 富士通株式会社 電子デバイス営業本部

FIND編集事務局

〒163-0721

東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル

TEL 03-5322-3326 FAX 03-5322-3395

印刷

株式会社シーコーポレーション